

令和2年度 教職員による自己評価

基本目標 たくましく豊かな心を持つ青少年の育成

※評価の規準

- 4 十分達成できている
- 3 概ね達成できている
- 2 どちらかというとは達成できていない
- 1 ほとんど達成できていない

目 標	取 組 の 内 容	評 価	分 析 及 び 改 善 策
心の豊かさ と自ら学ぶ力を 育てる学校教育の 実現	<p>1 豊かな心の育成</p> <p>①いじめ、不登校への適切な対応</p> <p>②あいさつと言葉遣い</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎月のなかよしアンケートの実施や教師の積極的な児童への関わりにより予防と、早期発見、早期対応ができた。児童アンケートの「先生は悩みをよく聞いてくれる」の項目で3.7の高い評価からもそれがわかる。今後も児童が安心して登校できるように、組織的な取組を続けていく。 ○ 日常的な指導と共に、児童会による、児童の主体的な取組、さらに高学年による手本が示され、校内のあいさつについてはかなり改善されている。しかし、個人差が大きかったり、家庭や地域でのあいさつへの評価には、2割程度の保護者が2以下の評価をしたりしており、依然改善の余地がある。自律した児童の姿として表れるよう、家庭地域と連携し指導する必要がある。
	<p>2 基礎学力の充実</p> <p>①確かな学力の育成</p> <p>②教職員研修の充実</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力学習状況調査、長崎県学力調査では、平均を上回る安定した学力の習得が見られた。各学年のながよ検定の合格率も95%～100%と高まり、児童に学ぶ喜を味わわせることができた。さらに分かる授業、個別の指導、家庭学習の充実を図り、全ての児童に基礎基本の学力の定着を実現する。 ○ 感染防止のために多くの制限の中での授業実践となったが、学年主任、分任された校務分掌主任等の主体的な働きかけにより、校内での全体研修と共に、同学年を中心とした日常的な研修が実現した。今後さらに後進の育成に努める。
	<p>3 健康安全教育の推進</p> <p>①安心安全な学校生活</p> <p>②体力づくり</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 感染防止を重点指導目標として「手洗い マスク 思いやり」の指導を行った。その成果が、換気の徹底や、マスクの着用率100%等、教職員の意識の高まりと児童の姿として成果が表れた。PTAとも連携を図ることができた結果でもある。更に児童の自律を育成し、新しい生活様式の定着を図っていく。 ○ 教師の工夫により感染防止策を講じながら、体育の授業が行っている。制限の中でも、「体育科発表会」が実施でき、運動する楽しさを味わわせることができたが、基礎体力の向上には課題が残った。
	<p>4 特別支援教育の充実</p> <p>①一人一人のニーズに応じた支援</p> <p>②教育相談の充実</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援学級、通級指導教室において個別の指導計画をもとに、個に応じた授業が行われ、児童の安定した登校が実現した。さらに児童・保護者のニーズに応えるために専門機関との連携を図ることもできた。 ○ 7名の特別支援コーディネーターが、困り感を抱えている児童や保護者の担当を分任し、担任と協力し丁寧な対応、積極的な対応、組織的な対応ができた。
	<p>5 国際化への対応</p> <p>①外国語活動の充実</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 5・6年生には、外国語専科が専門的要素を取り入れ、新学習指導要領に沿った授業が展開された。1～4年生にはALTが担任の補助を行い、生の英語に触れながら指導ができた。さらに指導を継続し、一人一人の児童のコミュニケーション能力を高めたい。

<p>6 教育環境の整備</p> <p>① 整った教育環境</p> <p>②保護者・地域との連携</p>	<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ユニバーサルデザインによる教室の全面掲示や、めあてとまとめが子供に届く授業、長与スタンダード等、全校で統一した学習環境の整備を継続したことで、学級の安定につながった。 ○ マスク着用率 100%、登下校時の交通事故 0 件家庭学習の充実等、コロナ禍の中でできる連携がとれ、安心して学ぶ環境が整ってきている。さらに家庭との連携を図り、基本的な生活習慣や家庭学習の定着など共通目標を共通実践していく必要がある。
<p>7 教職員の資質向上</p> <p>①指導力の向上</p> <p>②児童に寄り添う教師</p>	<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己評価の中でも、協働性・同僚性のある職場づくりについて 3. 3 と自己評価が高く、校内研究での共通目標を、同学年を中心に共通実践することができた。相互に研鑽する職員風土を生かし全体的な指導力向上と、後進の育成を図る。 ○ 幅広い年齢層で構成された教職員集団であるが、担任を中心に、同学年、専科等が協力し、複数で児童に寄り添う指導を行うことができた。その結果報告すべき大きな問題行動は発生しなかった。さらに感性を磨き児童にとって価値ある教師を追求していく。